

様式第6（第11条関係）

高浜市ふるさと応援交付金実績報告書

7年4月30日

高浜市長 あて

所在地 高浜市屋敷町二丁目3番地15
事業者 団体名 高浜まちづくり協議会
代表者名 横井光義

令和6年5月23日付け^{6高総政}第29-8号（及び 年 月 日付け第 号）で交付決定のあった令和6年度高浜市ふるさと応援交付金について、当該交付金の交付の対象となる事業年度が終了したので、高浜市ふるさと応援交付金交付要綱第11条の規定により、下記のとおり報告します。

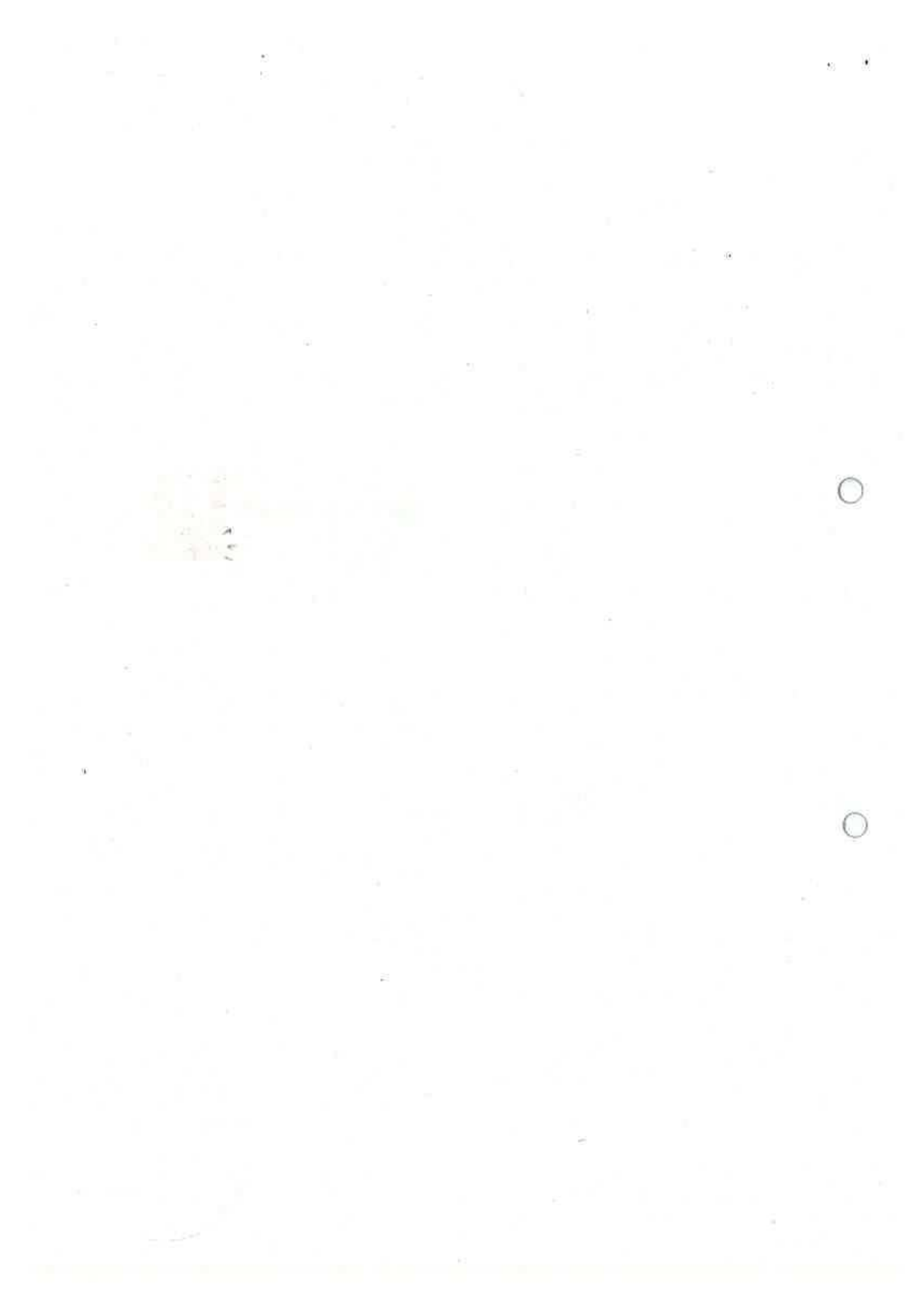
なお、この報告書及び添付書類の内容については、必要に応じて高浜市ふるさと応援交付金交付要綱第11条の規定により公表されることを承諾します。

記

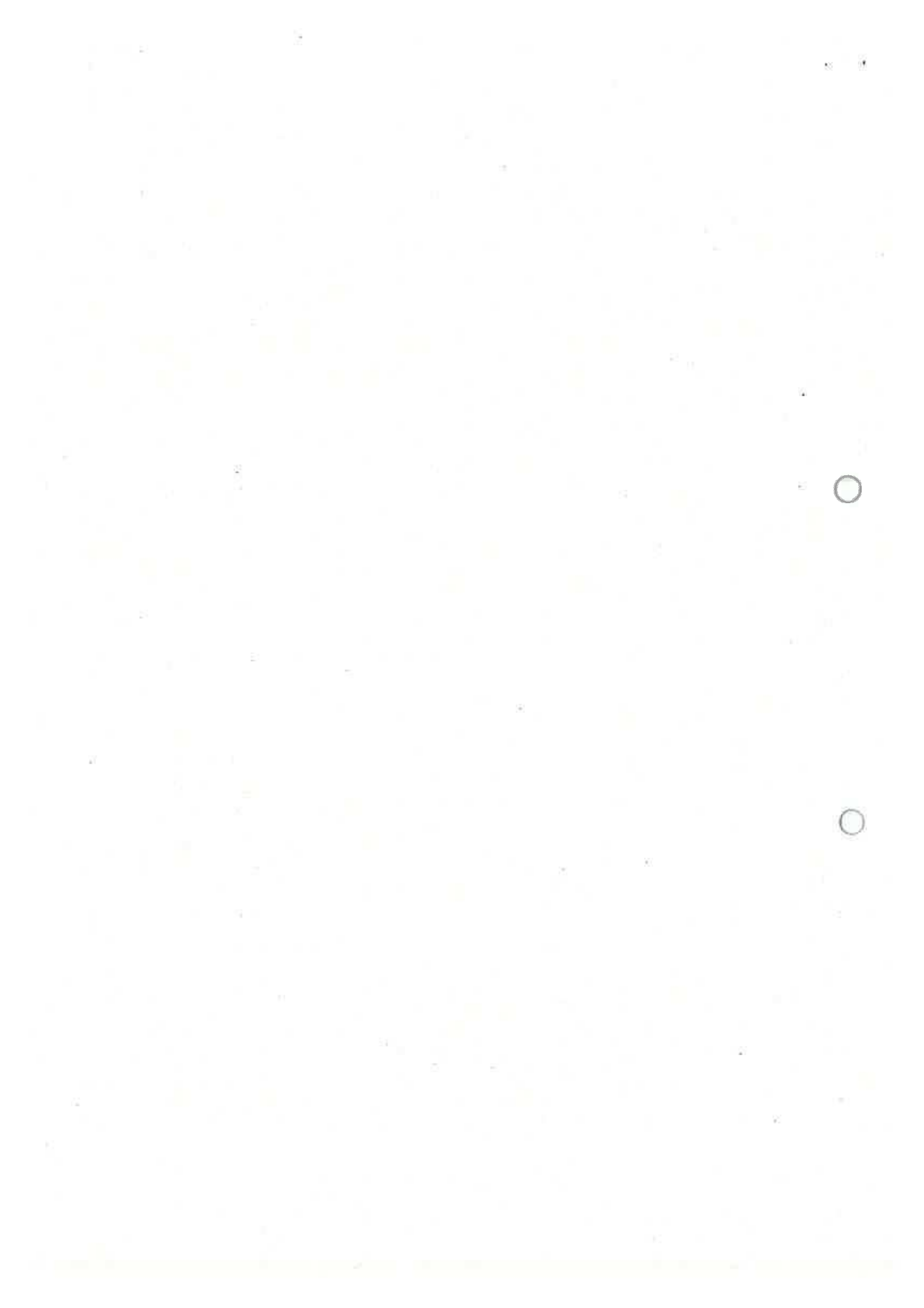
1 添付書類

- （1）事業報告書
- （2）収支決算書
- （3）その他市長が必要と認める書類





[1]子どもの健全育成に関する事業（伊葉所管子どもグループ/ GL内藤 尚仁 Gm:10名）				子どもが夢をもち、高齢者が笑顔で暮らせる よしはま	
第2次4年度計画 キッズクラブ・ジュニアーズ					
事業報告					
項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	評価・課題
1 1	あいさつ・声掛け活動 目的 学童生徒の「おはよう」の挨拶運動と交差点での交通安全を図る	小学校登校日の 5・15・25日 30分間(交差点毎に時間設定)	・八幡社北側 ・八幡町4丁目 ・屋敷町 ・芳川町 ・吉浜交流館西 ・幼稚園南入口 ・吉浜保育園東 ・吉浜小西側神し ボタン信号	校区内の8ヶ所の交差点に立ち、登校する吉浜小児童、高浜中生徒におはようの声掛けをすると共に、交差点横断中の交通安全を見守り活動 4月～3月 16回 延べ 176人	・交差点で誘導する事で、車の減速にもつながっており、安心な横断効果がえられている。 ・当番協力者、高齢者の減少もあり新規協力者必要。 ・あいさつが定着してきており、児童からの声かけも増えてきている。
1 2	吉浜小学校通学路建設 目的 小学校の新入学児童への通学路の情報事前提供	2月初旬 小学校入学説明会 資料配布	紙面での展開	4月吉浜小学校に入学する児童を対象に通学中の不安心箇所の情報を事前に提供し、親子で確認する機会をもつていただく	・紙面だけの展開になっており、事業活動となっていない。 ・今年度までの取り組みとし、次年度以降は方向性整理して取組み。
1 3	夏休み子ども講座 目的 知識、技能を持った地域の若者を講師に各講座を開催し、児童の自己啓発を図る	7月31日 8月3日 8月4日 8月10日	ふれあいプラザ 乳市 ふれあいプラザ ふれあいプラザ	・手芸講座 6名 ・陶器講座 6名 ・シャインアート講座 9名 ・タイルコースター講座 5名	・地域産業の講座開催が出来、地域の事を知っていただく機会になった。 ・参加者が少人数の講座もあり、実施内容の見直し必要。 ・子どもが地域の事を安心安全と思う講座の取組みも検討していく。 ・紙面展開での活動予定だったので、事業内容に合っていない。 ・今年度までの取り組みとし、次年度方向性を整理して列ね。
1 4	地域のことを知ろう 目的 学区地域行事の情報を児童へ配付して、各行事への参加と地域活動の理解の促進	未実施		紙面展開実施予定したが、実施共催なし	
1 5	みんなで子どものことを考える 目的 地域計画で立案された内容を具現化に向けて検討する	年間	ふれあいプラザ	定例会にて、実施内容を検討 ⇒児童会との交流を持ち、児童会メンバーとの打合せに実施内容整理	・1-6内容をメインに打合せの為、次年度は1-6と統合して取組む。
1 6	子どものやってみたい 目的 子どものやってみたいこと、やらせてみたいことを検討し、実行できる場を提供し、将来について考える機会とする	打合せ 11月16日 12月14日 1月18日 実施日 1月25日	ふれあいプラザ ふれあいプラザ ふれあいプラザ 小学校グラウンド	児童会役員が中心となって考えるイベントの打合せ 玉入れ、リレー、ビンゴ、ポッチャ、クイズを実施 参加者 児童 98名 園児 6名 幼児 2名 保護者 14名 協力者 10名	・子ども（主に児童会役員）の意見を中心に取組み、子どもたちが役割分担して進めることにより、事業計画に合った取組みができた。 ・次年度も継続していく。



[2]高齢者のいきがい創出に関する事業 (事業所管:高齢者グループ/ GL加、よ二 Gm:13名)				第2次地域計画 キャリアプランズ		子と「夢」をもち、高齢者が笑顔で暮らせる よしはま	
事業報告							
項目	事業名	実施場所	実施内容	実施状況	写真		
2-1	2-1 交流あい 目的 高齢者の生活の中で、 ウォーキングで 仲間と共に会話を しながら歩くことによ り、健康的な体づく り、体力の維持を 図る	第2・4土曜日 小池・人形コース 神明・地井コース 各約40分	毎週約40分程度で、コースを変えて地区内4コースを歩く。参加者は 自生地小池コタツチを登録し、健康年齢の向上を図る。 《報告》 年間の締めくくりとして、ウォーキング大会を開催。 ・ 早期健康ウォーキング (ゴミ拾いを兼ねる) ・ 月2回、年24回 (内1回は雪で中止) 延べ 237名 ・ 夜の閉居に合わせ、コースを変更して実施 3月30日 大山公園 11名	・ 気候の寒さが著しく (真冬・冬期) 高 齢者には体力的にきつい。 ・ 歩くことにより、体力維持ができ、昨年に 比べても参加人数が大体同じ。 ・ 参加者の体力に合わせて継続する。			
2-2	2-2 井戸端会議 目的 外出するきっかけを つくり、人とふれあ いカラオケで歌い、 体を動かすことによ り健康で生きがいの ある生活を楽しむ	折り紙教室 ふれあいプラザ 第3水曜日 カラオケ 第2・4月曜日 ランド・ゴルフ 毎週木曜日	講師の指導を受け、細かいパーツを折り紙で作り 土台に貼付け作業 新曲の練習 会員同士で歌い方の評価・歌謡力の向上を図る 延べ 120名 24回 体を動かし、健康維持を図る。仲間同士の絆を深める 延べ 415名 44回 愛好者同士の交流を通じ、仲間同士の絆を深める (8月は毎日のため、全休) 高松地区ランドゴルフ愛好者の交流の場として、まち師主催のグラ ンドゴルフ大会を開催。 《報告》 11月28日(木) 小池ランド 8ホール4回 参加者・・・18名 優勝 加藤 隆子 2位 黒柳 茂 3位 内藤 重雄江 地域福祉の定着から進めやすい高齢者 (日本福祉会) の定着りと、 高齢者全体の困りごと相談活動を実施 高齢者が安心して住めるまちづくりを進める。 《報告》 5月 困りごと相談のチラシ作成完了 7月 チラシを置くお店訪問とお祝い 《挨拶》 7月～2月の間に8件の相談および依頼あり (別紙参照)	・ メンバーの高齢化と減少により事業の見直 しを図る。	  		
2-2	2-2 お互いじゃんネット 目的 高齢者の日常的困りごと の相談を受け、お手伝 いをして、互いに助け合 地域を作る	通年	吉浜地区全世	・ 実施期間の可視化を図る。			

[3]伝統文化の発展に関する事業

(事業所管)伝統文化グループ/ GL村瀬 修 Gm(12名)

第2次地域計画
キヤッチフレーズ

受け継ごう 伝統文化 育てよう未来

事業報告

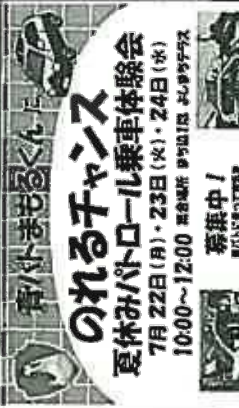
項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	経過・課題	写真
3 1	菊まつり 目的 高浜市の花である菊を地産地消すること、菊に対する愛着が持たれ、それを誇りに出展すること、菊まつりを通じて、多くの市民に見ていただける	4月～11月	小池農園 吉浜小学校 4幼・保育園 高浜中学校 一般市民宅	小菊づくり 2700本 鉢植え 6月 プランター植え 6月 正門東花壇定植 7月 里親菊 大菊・中菊・スプレー菊 3鉢セット 60組 応募者に7/14引渡し11/1受取 1番館東駐車場 菊花展会場 ・吉浜、6年緑化委員の菊鉢 ・里親の菊鉢	今年は特に猛暑となり、菊の生育が悪く、菊まつりの前には未だ蕾の状態が開花してなかった。 菊づくり、苗づくり、定植、育成管理と作業量が多く、半年と長期に渡り、生き物を自然環境の中で育てることは大変。(運営陣営も大きな課題である) 次年度でどこまでの範囲を実施するか、事業の見直しが必要。	
3 2	菊人形 目的 ふる里の通りある菊人形を見直し、園児と共に作成し、楽しみながら菊文化の情懷を伝える	6月～11月	小学校 4年生 制作 人形工房	菊人形用紙菊師定稿 6月 講座 テーマ「吉浜の菊と人形のこと」と歴史 講師伊藤学芸員 4年生テーマ「よさこいソーラン」4体 菊師制作工房 菊付け小学校 4幼・保育園 「ちいかわ」 5体 菊師制作工房 菊付け幼稚園 11月菊まつり展示 人形工房 プラザ前特設会場	菊人形のテーマは、学校、幼稚園で決めてもらい、菊師等はメンバーで作り、菊付けは、4年生が総合学習の時間内で行う。子どもたちは大変楽しんで作業はするし、学校から1つのものを依頼することはあまりない。このことで好意的に受け入れられている。課題として、夏休み中の菊師育成管理が難しくなっている。	
3 3	菊アートづくり 目的 菊人形とは別に一般市民が参加できる形で作品作りと展示で菊に親しみ、菊まつりを盛り上げる。	10月～11月	準備 人形工房 展示 1番館	制作 菊まつり展示会場 11月1日、2日 菊まつり期間 11月2日～10日 制作参加 高浜高校Aチーム 「月と太陽」 高浜高校Bチーム 「ウェディング」 JA吉浜チーム 「マイマイちゃん」 吉浜小学校チーム 「吉浜 元氣」 生け花教室チーム 「河氏物語/月と菊」	参加者は、平日昼間で制作出来るし、出来栄もよく、来場者からの反応もよい。ただ生き物を相手の菊事前準備や制作指導をはじめ、まつり期間中も毎日水やり等作品の維持管理は大変である。 課題としては、その管理をいかに軽減するかが必要。菊人形と違って特別の技術が必要なく、同じだえのある作品が出来ることが今後進化していく。	
3 4	本格菊人形づくり 目的 「菊師の里」として知られた我まちとして、菊人形制作技術を継承していくことは重要な課題である。	6月～11月	展示 1番館	6月菊師定稿 9月菊師制作 10月末 菊付け 制作テーマ「娘道成寺」 展示 1番館 展示用と制作実演用2体	この事業は、伝統文化の継承としては、本来の事業と考えるもので、この事業がある、始めて、子ども菊人形づくりが有り得るもの。 菊の栽培も毎年取り組んでいるが、気候の関係に大きく左右され上手に育成できない。はじめから購入菊で制作することも考える時期となっている。	
3 5	子ども菊人形づくり 目的 伝統文化である菊人形づくりを体験することにより、伝統文化への関心を高め、将来に渡って伝統文化が継承されるよう、その芽を育て。	12月 第1・2 土・日 午前9-12 午後1-4 午後2-4組 計4回開催し完成させる	人形工房/各展示館	菊人形で製作した歴史館を利用し4年生の希望者学校の授業ではなく、課外活動としての活動23名が参加。 菊師に紙貼り、布貼りを重ね、その上に貝殻系、木の葉の殻、種当の植物系の天然素材を利用して菊を考案作成し、色付けした菊水石を利し、人形に菊師の柄を模写する作業。メンバーの指導の下、子どもたちが制作する。制作された人形は、小学校玄関に1年間展示し、その後人形小路2番館に展示する。今年は、学校が工事中の為、2番館に展示している。	菊人形は360年余の歴史ある伝統で子ども達に体験させることは有難いこととは思うが、メンバーも高齢化し、人数も減少している中、事業の負担を減らしていく中で、来年度から廃止としている。	
3 6	人形文化記憶・啓発	9月～11月	人形工房/各展示館	テーマ決定から制作過程を写真と記録、展示状況写真記録しファイル化 菊まつり 初日午後 菊人形トーク開催 ふれあいプラザ 講師 伊藤学芸員	制作者側の視点での記録は、重要で、後世のために必要なこと。	

[4]防犯対策に関する事業（事業所管防犯グループ/ GL杉浦 茂樹 Gm.18名）

第2次地域計画
キャッチフレーズ

安心安全は地域の支えあいから

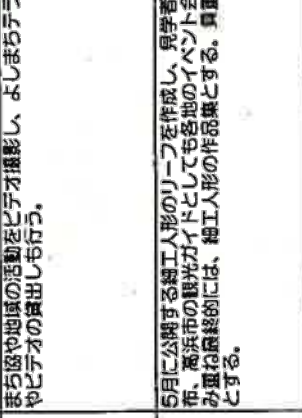
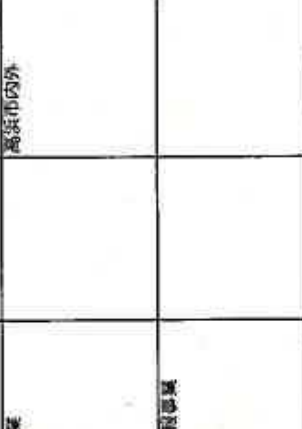
事業報告

項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	評価・課題	写真
4-1	こっこパトロール 目的 住居の日（徒歩） 住居を守るパト	毎月15日、10日 （8月を除く）	吉浜地区全体	環境美化を兼ねゴミを拾いながらパトロール。侵入盗防止のため警官とビラ配布・戸別訪問診断 住居の日（徒歩パトロール） 住居を守る（侵入盗防止）	侵入盗被害は大きくは増加していない。パトロールでも不審者を見かけることも無い。 駅の自転車盗難の発生が多く、対策を検討中。 子どもたちの被害報告無し。現状を維持する。 不審火の発生有り。注意が必要で、対策方法を検討する。	
4-2	こっこパトロール 目的 犯罪のないまちづくり	年間	吉浜地区全体	地域内を毎月1回づつパトロールをしながら警察による防犯診断を行う。 地域内全体を把握するため重点箇所の把握をする。	幼稚園、保育園では、園児たちがとても興味をもって歓迎され、交流ができた。	
4-3	こっこパトロール 目的 小学校、幼稚園のバトロール	毎月	吉浜小学校 4幼稚園	小学校、幼稚園のバトロール 11回 延べ 35人		
4-4	みんなまで吉浜を マモルンジャー 目的 地域住民の防犯意識 及び交通安全意識の 向上を図る。特に高 齢者・子どもも意識 を図る	年間	吉浜小学校 市内 小池グラント 安城文化センター 市内 高浜市内 吉浜小学校周辺	防犯教室 吉小5年生 3回 防犯啓発 防犯ネットワーク 3回 交通安全 自転車指導 1回 （交通安全協会の依頼） 2人 参加 愛知県侵入盗防止セミナー 安全なまちづくり県民運動 春・夏・秋・年末 防犯ネットワークに1名参加 広報啓発（ビラ配布） 「110番の日」 こっこキッズ防犯ビラ配布 1回	防犯少年団こっこキッズは被害者が減少。 防犯意識向上のためセミナー参加者を増やしたい。 高浜市 防犯ネットワークへはさらに積極的に参加する。	
4-5	みんなまで吉浜を マモルンジャー 目的 有パト乗車体験	7月22日、23日 24日	地区全域	親子有パト乗車体験 児童と保護者に防犯活動や交通ルールを学ぶことの大切さを体験してもらおう 計3日 延べ12人 延べ40人 PTA役員親子有パト乗車体験 各町内赤色回転灯の設置・点灯 各町2台 入替 2台	参加希望者が減少傾向にある。 PTA役員に子どもと一緒にパトロール乗車体験してもらい、防犯意識を高めてほしい。 赤色回転灯の点灯・点検有パトは抑止効果が現れていると思われる。	
4-6	みんなまで吉浜を マモルンジャー 目的 赤色回転灯の点灯	年間	地区全域			
4-7	みんなまで吉浜を マモルンジャー 目的 イベント会場警備	イベント開催時	入形小池一帯 丸畑公園 入形小池一帯 入形小池一帯 八幡社・神明社	花まつり 白鷺パレード交通整理 5/11 7人 夏まつり 花祭り会場警備・点検 8/13 9人 花まつり 山車パレード（雨天のため中止） 11/2 子ども健行列 交通整理 3/1、8 19人 祭礼警備（防犯ネットワーク） 10/12、13 4人	イベントを盛り上げるのに役立っている	
4-8	みんなまで吉浜を マモルンジャー 目的 子ども110番の 設置	年間	地区全域	子ども110番の旗の設置・マニュアルを町内会に依頼した 継続者を求めて、約100軒程度	子どもが犯罪に巻き込まれる事案は地区内で発生していないので、抑止力にはなっている。 継続したい。	
4-9	110番宅訪問及び吉浜 小学校通学路確認 目的 通学路の安全確保	年間 4月-5月	地区全域 地区全域	小学1年生対象 吉浜小学校通学路確認 4月より3週間にわたり各交差点11か所において見守り立哨	子どもが犯罪に巻き込まれる事案は地区内で発生していないので、抑止力にはなっている。 新入生の見守り指導は下校時の立哨として継続する。	

[5]防災対策に関する事業（事業所管防災グループ/ GL内課 森 Gm(21名)				第2次地域計画 キャッチフレーズ	家庭と地域 つながる 見える みんなの備えが命を救う
事業報告					
項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	評価・課題
5 1	無障壁な防災訓練 目的 町内会およびまち協 が有事の際のために 訓練する。	6月22日	心あらいプラザ西	1 27名の参加があり、受講者アンケート結果からほとんど何となく理 解できたと回答あり。 2 前年度と同様、文芸事例で防災訓練時の安全確認シート集計表を取 り入れた。但し非常時に集計・報告、などしていると余裕がない時 に実施面で出来るが疑問視する意見あり。 3 町内会対策本部と各拠点およびまち協対策本部の交際の状況の確認 は、すべて良好であった。 避難所開設訓練のために、避難所レイアウトや受付書類等を準備した が、当日台風10号の接近により中止した。 10月20日のクリーン作戦後に、スモークハウスの経緯と、し尿処理 の実演を行った。	- 無障壁の使用は非常時のみならず、通常の行事にも活用することで慣れることが有効手段に繋がる。 - このために、日ごろの点検整備や管理保守者を明確にしておき、「いざ」という時活用できるように心掛けが必要である。
5 2	避難所開設訓練 目的 避難所開設マニュアルに 従い、避難所の開設手 順と避難者の受け入れを 確認する。	10月20日	丸根公園	避難所開設訓練のために、避難所レイアウトや受付書類等を準備した が、当日台風10号の接近により中止した。	- 市が作成した避難所開設マニュアルは有るが、机上での確認だけでこの数年手順に沿った実動訓練をしていない。 - 避難者・まち協・市防災と一体となった連 携訓練が必要である。
5 3	災害緊急井戸の整備、維 持管理 目的 災害時はインフラ破 壊されることが予想 される。井戸水提供 の場所を確認し、水 質検査を行う。	10月～11月	呉竹町の家庭 芳川町の家庭	今年度は呉竹町（6井戸）と芳川町（7井戸）を対象に、追加調査ま たは再検査を実施した。	- 環境変化により水流や水質が変化すると考 えられるため、既存井戸であっても毎年調 査が必要となる。 - 細い道路で狭まった場所だけでなく、駐車ス ペースが取れる井戸水提供の家に協力して いただくことも必要である。 - 井戸水提供の家の所在地が分かるように マップ等での明示が必要となる。
5 4	防災食講習会 目的 非常食の一例クッキ ングを習得すると共 に備蓄の考え方を学 ぶ	12月22日	いきいき公園 クッキングス タジオ	- 災害時における食糧の考え方および非常食作成の実演およびし尿処 理の公演 - 受講対象者は各町内会等から推薦し、36名参加 - 講師の説明も上手く、大変好評であった	- 災害時は若者男女区別なく、お互いの助け 合ふことが肝心である。 - 日頃からローリングストックの考え方 や、非常時に食料の持ち寄りでの共同作業 も必要となる。防災食の考え方を継続的に 講習会を開催し、真に身につける必要があ る。
5 5	地区版防災マニュアルの 普及（町内会別） 目的 災害時の町内会役員 の役割とまち協およ び行政との連携を明 確にする	8月、3月	総会 防災訓練説明会	- 各町内会にて防災訓練前や総会時に防災マニュアルの説明を行った。 - 防災マニュアルの場前（八幡町、小池町、呉竹町）	- 防災マニュアルを作成しただけでなく、住 民に理解してもらわなければならない。総 会や防災訓練説明会等で継続的な説明が必 要となる。 - 記載内容も実態に合った内容にアップデー トしていかなければならない。
5 6	吉浜小学校の総合学習へ の協力 目的 まち協と町内会で作 成した防災マップを 基に、小中学校に対 象に防災教育を推進 する	1月15日	通学路	実施日は風が強く寒い天候でしたが、以下の内容について説明しながら 下校引率した。 ①傾斜地や危険箇所 ②地盤の弱い地形 ③防災倉庫の中身 ④避難場所 ⑤災害時無断の自動車乗降 ⑥公共電話の場所 ⑦避難するのに適した広い場所 など 参加者 児童 104名 町内会 26名 まち協 6名	- 防災は机上での教育も大事であるが、自分 たちの住んでいる街を肌で感じて理解し、 実際に備えることも大事である。 - 大人たちと災害について会話することも重 要であり、今後も継続的に防災教育に協力 してゆきたい。
5 7	総合防災訓練 目的 避難訓練と町内会消 防組織の役割を実行 動にて確認する	10月20日	丸根公園	各町内会では、児童・児童等に対し事前に防災訓練説明会を実施。但 し、実際の訓練は台風10号の接近により中止した。 10月20日のクリーン作戦後に、スモークハウスの経緯と、し尿処理 の実演を行った。	他県の災害経緯を参考に、現状の避難訓練 の在り方を見直すことが必要である。 (例：タオル掛け、住民への避難指示、 要支援者への搬送等)
5 8	防災備蓄倉庫、避難所開 品倉庫の管理 目的 防災備蓄品を定期的に 棚卸や点検の取 組・確認を行う	7月21日 2月6日	吉浜小学校体育館 南および西防災倉 庫	1 7月21日・2月6日に小学校体育館南・西の災害備蓄品の倉庫の備 品類の確認を行った。 2 7月21日・2月6日安心安全ステーションの防災備蓄品の確認を 行った。合わせて発動発電機の起動を行い、異常はなかった。	備蓄品の棚卸は今後必要。特に非常食は 消費期限があり、年単位でのローリングス トックとなる。状況は市からの非常食の提 供に頼っている状態である。永久保存でな いものの備蓄方法の検討が必要である。 いざという時に備え、年一回は起動確 認が必要である。

[6]環境保全の推進に関する事業 (事業所管:環境グループ/ GL:杉浦 志 Gm:14名)				第2次地域計画 キャッチフレーズ		花いっぱい 笑顔いっぱい 夢いっぱいのまち よしはま	
事業報告							
項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	評価・課題	写真	
6 1	道路清掃 目的 子ども・住民・近隣企業の参加により道路清掃等を行い、地域の交流と環境美化を図り、きれいな街を作る	10月20日	県道・市道等	- 吉沢学区のゴミ拾い・草取り等および河川公園で関連イベント - 参加者: 地元企業 17社▶261名 住民 135名 - イベントは一部防災グループ関連を含め まち協全体で取り組む - 回収したゴミ330kgは、当日分別後、翌日クリーンセンターへ搬入	- より多くの子どもたちを巻き込む住民の参加を促した。 - イベントにおいては、まち協事務局・防災グループの全面的な協力があり、地域が一体感を増した。		
6 2	公園・道沿の美化 目的 公園や道路の歩道などを花いっぱいにする 間を作り、安らぎのあるまちづくりをする	年間	- 地域約40箇所超の公園・道路・協力住民の庭先など - 県道樹尾高須線歩道沿線地域	- 花園の里親割により、住民の協力で花壇の管理をする - 里親さんから花苗等の購入・支給に適宜対応、管理員守り。 - 地域の全公園・人形小路沿い・通学路 (45カ所) - グループ員が年間を通して管理 (年14回、参加者延べ180人超) - 花苗の植え替えは6月と11月、各800株、毎月1回以上草取り等を実施 - 晴天が続いた主に8月・12月は頻りに水遣き作業 (23回超)	- 里親さんでも高齢化が進んでいる。後任探しが課題 - 新しいメンバーも数人加入したが、全体的に高齢化が進んでいる。 - 地域に住む外国籍の人たちにも参加を期待したが、厳しい状況である。		
6 3	自然との共生 目的 地区内に来る野鳥観察をすることで、自然の大切さを感じ、共生について考える機会とする。	12月1日	新田町池澤	- インストラクター4名の説明を受けながら野鳥観察を実施した - 参加者 観察70名、確認した野鳥40種類。 - グループ員は参加者の安全を見守りながら、周辺のゴミ拾いを実施	毎年多くの参加があり、今後も継続したい		
6 4	キッズもん 目的 吉沢ゆかりのキッズもんを利用し、地域の活動に興味を持ってもらう。	年間	吉沢地区全棟	4町内会実施イベント・仲夏の祭りに参加してPR活動を実施 11/3プラザにてキッズもんの紙芝居他実施。参加者50人超 - 自動車貼付け用マグネットシート2種類5枚を作成し、PRに活用 - キッズもんのぼり旗を新調。市広報紙にキッズもんを初掲載 - SDGs活動を兼ね、「ペットボトルでキッズもんかざぐるま」でPR (試行) - 和歌山県在住の吉沢家来高へ活動報告 (手紙、年1回以上実施)	- 計画ではパネル作成があったが、協議の結果、取りやめた。 - 代わりにPR用にマグネットシートを作成。 - 集めるみ作成も計画したが、案がまとまらず年度へ持ち越しとした。 《読み聞かせの会》による紙芝居は好評だった。 - 今後年1回程度継続実施をしたい。		

事業報告

事業名		実施日	実施場所	実施内容	写真
7 1 広報誌発行 「よしまちネット」	6月 10月 3月	小学校区全戸配布		よしまちネット発行 第58号・2024年 7月1日号 第59号・2024年11月1日号 第60号・2025年 4月1日号	
				・ ホームページの更新 ・ ブログの公開 ・ インスタグラムの更新 ・ フェイスブック公開	
				3月1日あいづラザ 関連場所	
				吉浜小学校区ほか 行事開催場所	
				高浜市内外	
7 2 インターネット管理事業				デラスの情報コーナーの管理、デラスでの 催事の管理	
7 3 パネル展示事業				まち図や地域の活動をビデオ撮影し、よしまちデラスでのビデオ放送 やビデオの貸出しを行う。	
7 4 設備調査事業				5月に公開する糊工人形のリーフを作成し、見学者の資料として配 布。高浜市の観光ガイドとしても各地のイベント会場で配布。毎年精 み重ね最終的には、糊工人形の作品集とする。貴重な資料の保存管理 とする。	
7 5 伝統文化広報事業					

【9】講座及び幼児教育に関する事業（事業所管・教養グループ/ GL・鈴木 啓悟 Gm:4名）

第2次地域計画
キャッチフレーズ

楽しんで、充実した毎日を

事業報告

項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	経過・課題	写真
9 1	講座開設事業 さわやか歌広場	2回/月 月曜日	ふれあいプラザ	ボイス・リーダーとアコーディオン伴奏で、童謡や唱歌、昭和の懐唱歌をみんなで一緒に歌う。認知症対策など高齢者を対象に実施する。 年間 24回 延 1,768名参加	コロナの蔓延で参加者が大きく減ったが、ここにきて増加し100名に達した。参加者の世代交代がスムーズであり、口コミの威力を強く感じる。	
	はつちチューブ 体操	4回/月 月曜日	ふれあいプラザ	専門の先生の元、みんなで体の維持に努める。 年間 45回 延 635名参加	当初より数名減ったが、女性の機嫌のつながら、好評を得ている。	
	淑女麻雀教室	3回/月 火曜日	ふれあいプラザ	男性アドバイザーの元、初心者の女性が楽しみ、知能ゲームを楽しむ。 年間 36回 延 308名参加	「麻雀を教えたい」と言う声から始まったが、何とか「役」も覚え、麻雀らしくなってきた。脳トレです。	
	脳トレピアノ	体操会	ふれあいプラザ	両手の指を異なる動きで動かすことによって、音楽を楽しむながら、脳トレを図る。 体操会実施日 3/5 参加人数 11名	来年度から正式にスタートする講座ですが、体験会を開いたところ11名が参加した。子どもの頃の「夢」実現へ。	
	シャキーンと英姿勢	8回/月 木・金	ふれあいプラザ	捻じれ筋脈を治し、痛みも姿勢も修正する。高齢者にとっては体力の維持に役立つ。 年間 96回 延 1,242名参加	年齢がゆくと身体のあちこちに痛みを感じるようになっていきます。そんなところを対策しながら体力維持を今後も進める。	
	いけばな教室	2回/月 金曜日	ふれあいプラザ	池坊所屬講師を迎え、盛花・投入・自由花等の指導を受け、花をいけ、その美を楽しむ。 年間 19回 延 247名参加	家を花できれいに飾りたい、そんな意気込みが芽える生け花ばかりでした。参加者の漸増が不安材料。	
	ゆるゆるトーク	1回/月 土曜日	ふれあいプラザ	カウンセラーと保護者数名で会話し、児童についての悩みを語り合い共有し、まだ助言を受けたりする。 年間 7回 延 35名参加	こんな子どもで悩んでいる父兄がいるのが、そんな感じでした。早くこうした場所に来なくても良くなるように。そんな講座にしてゆきたい。	
	切手アート	1回/月 土曜日	ふれあいプラザ	使用済み切手を使って、アートに挑戦。認知症対策。 年間 9回 延 57名参加	高齢化もあり、参加者減少が懸念される。	
	手芸講座	不定期	ふれあいプラザ	数種の小物を作り、元気に。 年間 6回 延 40名参加	参加者減少のため、来年度より廃止。	
	かんたん料理教室	不定期	きずな会館 JA吉浜支店	賑やかにしゃべりしながら、一緒に料理を作る。 年間 1回 延 7名参加	場所の確保が難しいことと、参加者が少ないため来年度より廃止。	
	囲碁講座		ふれあいプラザ	いつまでも頭を使い元気に実施できず	参加者減少により開催できず。来年度より廃止。	
9 2	幼児教育 もしかすあそび	1回/月 日曜日	ふれあいプラザ	もし遊び・かず遊び・英語遊びの導入を通して子どもたちの無限の可能性を共有。季節行事を通して子どもたちに大家族のように声かけ・思いやり・手伝いと育った行動を育む。ものづくりを通して経済の仕組みを体験し、どんな人になるにしても将来の選択のひとつになればよい。 年間 12回 延 266名参加 子ども読書推進支援（2冊/月）	講座に参加することにより保護者の関係が近しくなり、情報を共有するようになった。	

[10]夏イベントに関する事業（事業所等夏イベントグループ/ GL内蔵 尚に Gm8名）				第2次地区計画 チャッチフレッシュ	みんなでつくる子ども夢のまち よしはま	
事業報告				実施内容	目的・経緯	写真・経緯
項目	事業名	実施日	実施場所	実施内容	目的・経緯	写真・経緯
10-1	夏まつり 目的 同時期に開催される 屋敷町・呉竹町まつり と連携をとり、夏 まつりを開催する 子ども及び保護 者や地域住民の交流 の促進を図る	5月16日 6月13日 6月27日 8月13日	ふれあいプラザ ふれあいプラザ ふれあいプラザ 丸地公園	夏まつりの打合せ 夏まつりの打合せ 夏まつりの打合せ ・キッズダンス 50名 ・盆踊り 延べ700名 ・じゃんけん大会 250名 ・関連コーナー パルーンアートコーナー 子どもコーナーなど	・コロナ開け開催にて、多くの方に参加頂けた。 ・当日要領過多などの問題が発生した。使用内容および登壇の打合せが必要。 ・準備および事前打ち合わせ不足。 ・次年度からは、事前に整理をしたうえで打合せし、まち協全体での運営実施する。	
10-2	スポーツふれあい 目的 スポーツ（ソフト ボール）を通じて小 学校区の住民のふれ あいを図る	5月29日 7月14日、21日 7月28日 8月11日、18日 8月25日	ふれあいプラザ 流作グラウンド 芳川多目的広場 流作グラウンド	実施内容打ち合わせ 2会場にて、練習試合 各日60～80名 5町、6チームでの対抗試合 3チームごとの抽当たり予選 予選勝者による決勝戦 参加者 90名 優勝 屋敷町チーム 準優勝 呉竹チーム	・コロナ開け開催にて、各町の交流の場となった。 ・各チームごとの交流の場になっている。 ・チーム構成に課題あり。 ・次年度は、早めにチーム構成などの打合せを実施、方向性を整理して対応。	
10-3	七夕会 目的 各町で実施される七夕会に、世竹を提供すること、園児・保護者及び地域住民をまじえた地域交流の促進を図る	7月2日	志保幼稚園 志保保育園 志保北部保育園 志保さんさん保育園	各幼稚園へ世竹の提供 6名 協力者	・配布だけの内容になっているので、事業内容としては適切とは言えない。 ・この内容は、今年度で活動を終了する。	

(1)事業運営 (事業所管・事務局・地域計画推進チーム)		事業内容		実施内容		実施内容	
項 目	事業項目	事業内容	実施内容	実施内容	実施内容	実施内容	実施内容
11	1	全員の会員の総会を交 える組織として、事務局 長(事務所長)・事務局員(書記、 会計、広報担当、地域計画担当、事務局員)等 による事業運営 を認める。	事務局 会費、会費、事務局 長(事務所長)・事務局員(書記、 会計、広報担当、地域計画担当、事務局員)等 による事業運営 を認める。	事務局 会費、会費、事務局 長(事務所長)・事務局員(書記、 会計、広報担当、地域計画担当、事務局員)等 による事業運営 を認める。	事務局 会費、会費、事務局 長(事務所長)・事務局員(書記、 会計、広報担当、地域計画担当、事務局員)等 による事業運営 を認める。	事務局 会費、会費、事務局 長(事務所長)・事務局員(書記、 会計、広報担当、地域計画担当、事務局員)等 による事業運営 を認める。	事務局 会費、会費、事務局 長(事務所長)・事務局員(書記、 会計、広報担当、地域計画担当、事務局員)等 による事業運営 を認める。
11	2	事務局会議 9名	事務局会議 9名	事務局会議 9名	事務局会議 9名	事務局会議 9名	事務局会議 9名
11	3	事務局会議 16名	事務局会議 16名	事務局会議 16名	事務局会議 16名	事務局会議 16名	事務局会議 16名
11	4	事務局会議 23名	事務局会議 23名	事務局会議 23名	事務局会議 23名	事務局会議 23名	事務局会議 23名
11	5	事務局会議 38名	事務局会議 38名	事務局会議 38名	事務局会議 38名	事務局会議 38名	事務局会議 38名
11	6	事務局会議 41名	事務局会議 41名	事務局会議 41名	事務局会議 41名	事務局会議 41名	事務局会議 41名

地域内分権推進事業(通称:移譲事業)					B 移譲事業	
行政が実施していた事業のうち、「地域でやりたいと申請があった事業について 権限・財源を地域に移譲して取り組む事業(事業費の清算は不要)						
款	目	事業名	所管グループ	事業内容	実施内容	
B	1	青パト防犯パトロール	防犯グループ	青パトによる学区内の防犯・交通安全・下校時学童安全及び街宣による啓発活動。	パトロール回数	63回/年
					延参加者数	202人/年
				週3回		
B	2	総合防災訓練	5各町内会 主管	1次訓練 各町内会	高浜市総合防災訓練/9月1日 台風10号の為中止	
					総合防災訓練	総合防災訓練活動の代替事業
					事前準備	10月20日クリーン作戦と同日に
					8月 実施	防災訓練を実施 於:丸畑公園
					訓練説明会	内容:簡易トイレの組立と使い方
					8月 実施	煙道潜ぐり抜け、防災アンケート
			防災グループ 主管	2次訓練 まち協	総合防災訓練	参加者数 135人
					事前準備	
					8月 実施	
B	3	健康体操	高齢者グループ	介護予防事業として、高齢者を対象とした健康体操を行う。	健康体操 開催	月 4回 参加数 140人
						延 48回 延人数1,680人
					ストレッチを主にした体操	
B	4		高齢者グループ	認知症サポーター養成講座の開催(年5回程度)	キャラバンメイト連絡会議	4/26 全体会議 10/21、1/20 認知症会議
				行政キャラバンメイトと協力し、小学校3年生児童に紙芝居等を通して、わかりやすい認知症出前教育を実施。出張講座の実施	認知症サポーター講座	11/3 第1回認知症養成講座開催 1/30 第2回認知症養成講座開催 3/23 第2回認知症養成講座開催



ふれあいプラザ管理委託事業（事業所管 事務局）

事業項目		概要	備考	実施内容	C 管理委託事業
C 1	貸室受付・関連業務	貸室 スペース1・2・3・4 フリースペース(はしまちテラス)	事務職員	貸室使用状況、スペース1・2・3を開放しパーティションの可動操作の困難さと人員の関係、space1・2・3を判断し料金を徴収。その為、同時には2室使用は不可となっている。 1階(はしまちテラス)利用状況 昨年度改装され、今年度より本館じょうして貸室みまはさみ5月～10月末までの間1時間延長午後6時まで開館した。毎日利用状況を時間差と年輪順別に調査した。またアンケート調査も行った。全体的には、1日当たり126人の利用状況であった。放課後や休日の子供連れの居場所、大人の居場所の場所として定着してきている。	
	人事管理	職員配置、シフト管理、勤務、賃金管理	基本、ふれあいプラザの維持管理業務・受付業務等とするが、状況により、まち協賛業務運営に関する事務作業もその業務とする。但し、グループの事務については、範囲外とする。	1 直(女性) 午前8.30～午後1.00 1ヵ月単位 5人でシフト 2 直(男性) 午後1.00～午後5.00 3 直(男性) 午後6.30～午後9.00 但し、利用がある場合のみその時間帯 1ヵ月単位 2直3直 1人でシフト	
2	施設管理	会館施設の維持清掃管理 鉄骨造2階建て 延べ面積307.93㎡ 外部デッキテラス 電話(0566-52-1101) キャッチ 受診契約・Wi-Fi NI-K受診契約		毎日 1階床当番事務職員が掃除機にて清掃 2階床掃除ロボットにて清掃 水回り、トイレは事務職員が清掃 (※令和7年度からは、年1回業者に委託し、2階カーペット部洗浄清掃、1、2階シート張部は洗浄、ワックス。)	
3	通信設備活用管理				
4	事務機器管理	複合機(リース契約)/・使用管理 印刷機(リース契約)/・使用管理 その他機器(市より貸与/リース別紙)・使用管理			ブラックコピー使用枚数 29,366 枚 カラーコピー使用枚数 13,577 枚 386792
5	設備機器管理	空調設備機器清掃 シルバー人材 自動扉 保守無 総合整備ALSOK委託契約 定期清掃委託 年2回シルバー人材 消防設備保守点検委託 浄化槽点検委託 エレベーター保守点検委託契約 事務室管理		保守 故障無し 令和7年1月末解約 高浜電工(株) (株)サムテック 東芝エレベーター(株)刈谷営業所 遠隔監視報告 毎月	誘導灯バッテリー 交換
6	事務等消耗品購入管理				
事業予算					5,529,470



[交付金会計]

令和6年4月1日～令和7年3月31日

収入の部					単位:円
款	事業項目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A-B) 差額	備考
A	市民予算枠事業 交付金	7,286,000	7,286,000	0	決算額には交付金返還 額 473,624円を含む
B	移譲事業交付金	835,000	835,000	0	決算額には交付金返還 額 215,000円を含む
C	委託事業委託料	5,529,470	5,529,470	0	
交付金 ABC 収入 計		13,650,470	13,650,470	0	

支出の部					単位:円
------	--	--	--	--	------

[A市民予算枠事業]

款	項	所管事業グループ	(A) 予算額	(B) 決算額	(A-B) 差額	備考
	1	子どもグループ	165,000	127,627	37,373	
	2	高齢者グループ	210,000	164,807	45,193	
	3	伝統文化グループ	2,300,000	2,176,079	123,921	人形づくり工数減による減額
	4	防犯グループ	305,000	39,824	265,176	
	5	防災グループ	306,000	276,925	29,075	
	6	環境グループ	822,000	754,181	67,819	キザえもんのパネル制作取止め
	7	広報グループ	375,000	368,623	6,377	
	8	食育グループ	322,000	322,000	0	
	9	教養グループ	458,000	458,000	0	
	10	夏イベント グループ	603,000	585,427	17,573	
	11	事業運営費 (事務局)	1,420,000	1,538,883	-118,883	
		交付金返還額	0	473,624	473,624	差額の合計は、返還金となる。
		合 計	7,286,000	7,286,000	0	

[B 移譲事業]

款	項	事業名	(A) 予算額	(B) 決算額	(A-B) 差額	事業所管
B	1	南バト防犯バト ロール事業	532,000	317,000	215,000	防犯グループ
B	2	総合防災訓練事業	139,000	139,000	0	防災グループ
B	3	健康体操事業	144,000	144,000	0	高齢者グループ
B	4	認知症サポーター 養成事業	20,000	20,000	0	高齢者グループ
		交付金返還額	0	215,000	215,000	差額の合計は、返還金となる。
		合 計	835,000	835,000	0	

[C 委託事業] 事業所管: 事務局

款	項	事業名	(A) 予算額	(B) 決算額	(A-B) 差額	備 考
C		ふれあいプラザ 管理委託事業	5,529,470	5,529,470	0	
		合 計	5,529,470	5,529,470	0	



[交付金外会計]

令和6年4月1日～令和7年3月31日

収入の部					単位:円
	項 目	(A)予算額	(B)決算額	(A-B)差額	備考
	前年度繰越金	954,411	954,411	0	
	吉浜5町会特別会計より繰入	0	559,856	-559,856	次年度以降 夏イベント事業に 支出予定
	ふるさと応援交付金より繰入	1,000	10,000	-9,000	
	ぎすな会館受付代行業務	100,000	100,000	0	取扱い件数 419件
	その他収入	0	597,047	-597,047	講座開設収入 自販機売上金 軽トラック使用料 コピー料金 委 譲事業費余剰金
	駐車場料金返還金	0	420,000	420,000	前年度支払済の返還
	受取利息	1,000	204	796	
	合 計 (次年度繰越金)	1,056,411	2,641,518	-1,585,107	

支出の部					単位:円
部門	項 目	(A)予算額	(B)決算額	(A-B)差額	備考
		0	0		
		0	0		

繰越金処分(案)	繰越金 2,641,518 円	積立金 1,000,000円
		次年度繰越金 1,641,518円

(規約第46条2項に基づく)		積 立 金	単位:円
令和5年度末 残 高	總會承認後 令和6年度積立金	合 計	備 考
3,515,607	1,000,000	4,515,607	

※積立金の目的は、同条2項1号・2号の「設備等補修」「防災備品」、他に使用するものとし、使用についての手続きは、規約第50条に基づく。

様式第3（第7条関係）

高浜市ふるさと応援交付金交付決定通知書

6 高総政第 29-8 号
令和 6 年 5 月 23 日

吉浜まちづくり協議会
横井 光義 様

高浜市長 吉岡 初浩 印

令和 6 年 5 月 22 日付けで交付申請のあった令和 6 年度高浜市ふるさと応援交付金については、高浜市ふるさと応援交付金交付要綱第 7 条の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので通知します。

記

1 交 付 額 10000 円

2 交付条件

- (1) 高浜市ふるさと応援交付金交付要綱第 4 条 に規定する交付条件を遵守してください。
- (2) 当該交付金の交付の対象となる事業年度が終了したときは、高浜市ふるさと応援交付金交付要綱（以下「要綱」という。）第 11 条の規定により、速やかに高浜市ふるさと応援交付金実績報告書を提出してください。
- (3) この交付金の使途について不適当と認めるときは、交付決定した内容の全部若しくは一部を取り消し、又は既に交付した交付金の全部若しくは一部を返還していただく場合があります。

